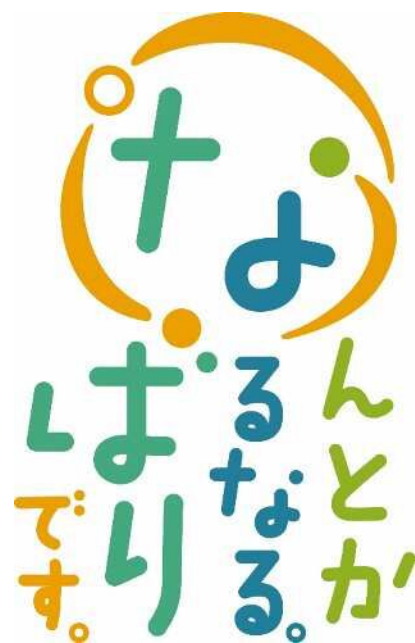


なばり流まちづくり ～

参考資料

「地域共生社会」から「語れるまちなばり」へ



名張市

名張市の概況



大阪と名古屋の真ん中
三重県名張市

大阪へ55分！近隣都市へ便利なアクセス
乗り換えなしの近鉄特急で



お車では、大阪方面…大阪・松原JCTから約85分
名古屋方面…名古屋西JCTから約100分



名張市の概況

名張市は、三重県の西部、伊賀盆地の南西部にあって、大阪へ60km、名古屋へは100kmで、ちょうど近畿・中部両圏の接点に位置しています。市域は東西10.6km、南北13.1km、面積129.77km²で、西・南側が奈良県に接しています。山地の多い地勢は新鮮な空気や清らかな水とともに、風光明媚な自然に恵まれています。

古くは伊勢参りの宿場町として形造られ、江戸時代には藤堂氏の城下町として発展しました。

明治から昭和に掛け、数回の合併を行い、昭和29年3月31日に市制を施行しました。

昭和38年以降には大規模な宅地開発が進み、大阪方面への通勤圏として急速な発展を遂げるとともに、市制発足当時3万人であった人口も、昭和56年度には人口急増率全国1位になるなど発展を続け、8万5千人台まで増加しましたが、現在では7万5千人を割り、減少傾向にあります。

名張市の位置・面積

面積 129.77km²

海拔 225.93m

名張市の人口（令和6年8月1日現在）

総数 74,453人

男 35,874人

女 38,579人

世帯数 34,942世帯

高齢化率 34.8%



名張市総合計画「なばり新時代戦略」

総合計画とは

総合計画は、将来どのようなまちにしていくなかの道しるべであり、まちづくりの基本となる計画です。他の自治体と連携して取り組む広域行政に対して、調整・連携・要請などの計画の基礎となります。

また、この計画は住民をはじめ市内で働く人、学ぶ人、事業者、団体などあらゆる主体に共有される指針です。

基本理念

語れるまち なばり

市内外の協力者を増やしながらかちの魅力をみんなで発信し、魅力ある場をたくさん作る。身近な人、周りの人、名張を知らない人たちに名張を語りたくなる人をたくさん増やしていく。そうすることで、名張「らしさ」をかたちづくるができます。みなさんとにぎわいあふれる「語れるまちなばり」を目指します。

目指す10年後の姿

変化をおこし 活力あふれ みんなでつくる 大好きなまち なばり

社会をはじめ、様々なことは時代とともに変化しています。そういった変化に対応することはもちろんのこと、これからは、市民自らが変化をおこすこと、挑戦することを目指します。そうすることで、活力あふれるまちをつくり、みんなでつくるまちは、大好きなまちになっている。名張が大好きなひとたちであふれる。そして、名張に愛着を持ち、まちの将来に主体的に関わる協力者で更にまちに活力があふれる。10年後にそのような名張市を目指します。

ひととまち

名張市は、ひととまちへの様々な取組を行っています。様々な取組による「地域力」を基本にして、住民相互の支援を通じて、有償ボランティアによる生活支援や、全世代型・全対象型の地域包括ケアシステムなど、誰もが生きがいを持って、安心・安全に暮らせるコミュニティの形成・充実に向けた取組を進めています。

ひととまちへの取組は、名張市の強みであり、地域共生社会の実現に向けた、今後の取組の基盤となります。

この基盤を大切に、更に進化・発展させ、目指す姿の実現に取り組みます。

○総合計画の構成・期間・進行管理

基本構想

計画期間 10年間 2023（令和5）年度～2032（令和14）年度

中長期的なまちづくりの指針となる基本理念と目指す10年後の姿を定め、それを実現するための重点プロジェクトと基本施策を示しています。

基本理念

目指す10年後の姿

重点プロジェクトと基本施策

基本計画

計画期間 4年間 第1次 2023（令和5）年度～2026（令和8）年度
第2次 2027（令和9）年度～2030（令和12）年度

目指す姿や現状課題を明らかにし、持続可能な開発目標（SDGs）の考え方も踏まえながら、取組内容を示します。

また、市内15の地域づくり組織において策定された「地域ビジョン」を最大限尊重し、地域と市の協働により、それぞれの地域の特性を活用した個性あるまちづくりに取り組みます。

各施策の取組

地域別計画

評価による計画の進行管理

行政評価を通じて、有効性・効率性・必要性の観点から点検を行い、毎年度その結果を公表します。

総合計画「なばり新時代戦略」
の本冊はこちら



重点プロジェクトと7つの基本施策

本計画のテーマは「動き」。

基本理念及び目指す10年後の姿の実現に向け、まちが行政だけでなく、そこに主体的に関わる市内外の人たちであふれることが重要です。

「誰かがやってくれる」ではなく、「自ら行動する」。より良い名張をかたちづくるため、「動き」を本計画のテーマとしました。

この「動き」を持って、これまでの取組を継承、発展させ、ひととまちを大切に重点プロジェクト「おこす」と重要な「動き」を持った7つの基本施策（動詞）を設定しました。

これまでの総合計画「新・理想郷プラン」の考え方や取組を基盤として、そこに重点プロジェクトとして3つの「おこす」に取組ます。

この総合計画の特徴として部局別施策の考え方ではなく、部局横断的に取組するための基本施策となっています。

重点プロジェクト



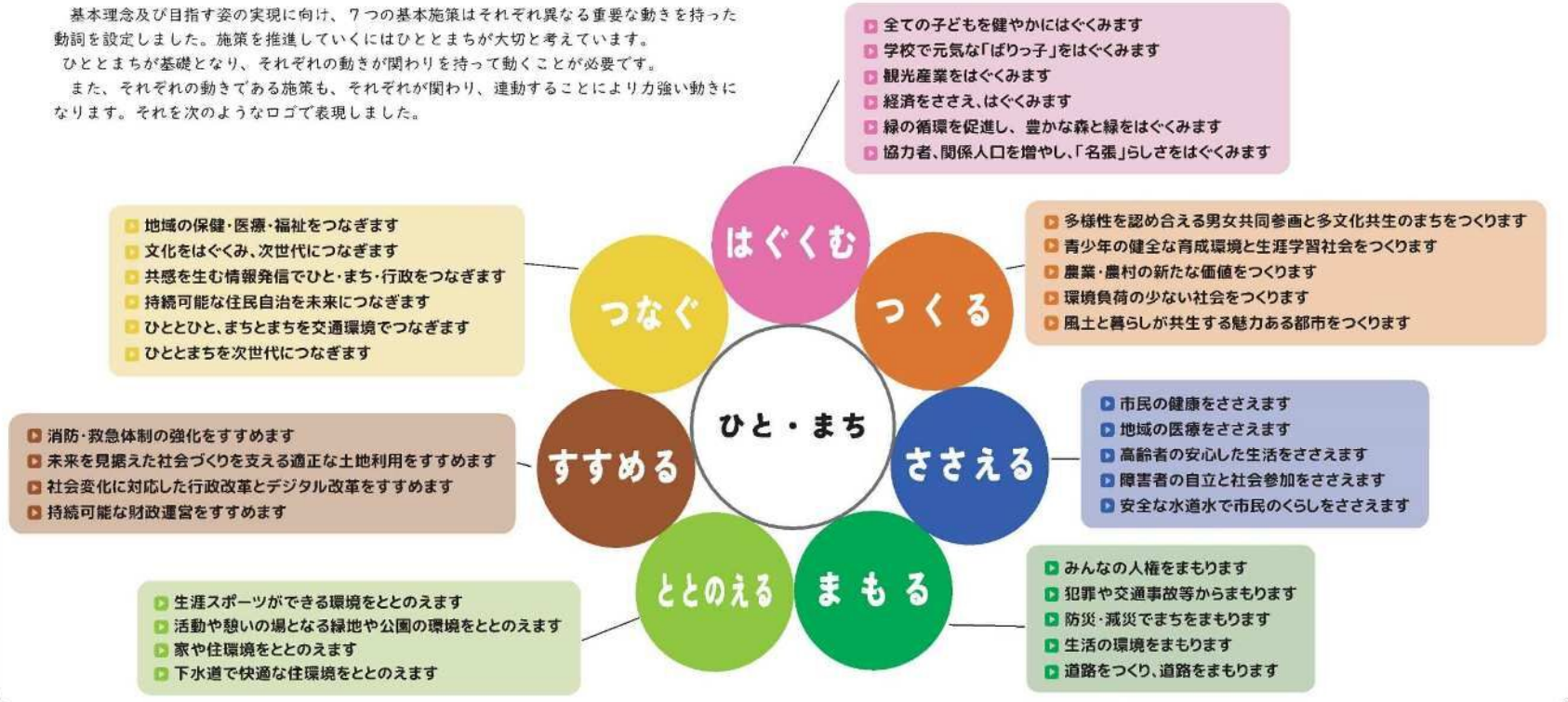
- ▶ **産業をおこす**
 - 地域資源を活用した地域産業の活性化
 - 新たな雇用の創出
- ▶ **若者でにぎわいをおこす**
 - 若者のまちづくりへの参画
 - 若者のチャレンジ支援
 - 居場所づくり支援
- ▶ **地域と多様に関わる人々をおこす**
 - 市民協力者の増加
 - 関係人口の増加

7つの基本施策

基本理念及び目指す姿の実現に向け、7つの基本施策はそれぞれ異なる重要な動きを持った動詞を設定しました。施策を推進していくにはひととまちが大切と考えています。

ひととまちが基礎となり、それぞれの動きが関わりを持って動くことが必要です。

また、それぞれの動きである施策も、それぞれが関わり、連動することにより力強い動きになります。それを次のようなロゴで表現しました。



名張市の地域共生社会の実現に向けた取組

子ども・高齢者・障害者を含めた**全ての人々が暮らしと生きがい**を**共につくり、高め合える**地域社会（＝地域共生社会）を目指して

①「我が事」の意識づくり

地域づくり組織

小学校圏域に
設置した包括
的住民自治組
織 15地域

平成15年度から地域への各種補助金をゆめづくり交付金へ

②「丸ごと」の相談支援体制

まちの保健室

地域福祉の活
動拠点として
設置した「ま
ちの保健室」

平成18年度から地域包括支援センターのフランチとして

③多機関協働による包括的相談支援体制

地域福祉教育総合支援 ネットワーク

つながる（断らない）相談支援体制

エリアディレクター
（相談支援包括化推進員）

分野別縦割りの
支援を横断的に
一歩踏み出した
支援に！

「社会的処方」による
支援機能

多様で継続的な
「参加支援」

①地域づくり組織（名張流まちづくり）～我が事の意識づくり

第1ステージ 「交付金化」

○平成15年3月に「名張市ゆめづくり地域交付金の交付に関する条例」を制定。

◆小学校圏域に1つずつの包括的住民自治組織「地域づくり組織」を15地域に設置。各種補助金を交付金として一本化。

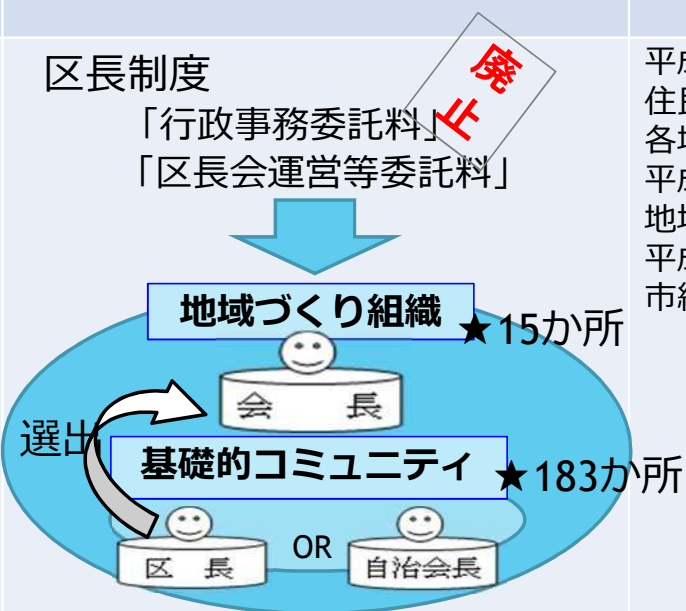
ゆめづくり地域交付金の概要

1. 地域づくり組織の活動支援として交付
2. 使途自由で補助率や事業の限定がない交付金
3. 住民合意でまちづくり事業を実施し、交付金を活用
4. ハード・ソフトは問わない。ただし、宗教活動、政治活動に使用してはならない。

平成15年度実績： 5,000万円
平成30年度実績： 1億600万円

第2ステージ 「組織見直し」

○昭和30年代からはじまった「区長制度」を廃止し、区・自治会である「基礎的コミュニティ」と、それを包含する小学校区を単位とする「地域づくり組織」に整理。



第3ステージ 「地域ビジョンの策定」

○15地域が個性ある将来のまちづくりのための基本方針、将来像、それに基づく実施計画を策定。

平成21年～
住民アンケートの実施
各地域にて策定委員会を組織
平成24年3月
地域ビジョン発表会
平成30年3月
市総合計画の地域別計画に位置づけ



地域ビジョン策定のためのワールドカフェ

第4ステージ 「市民センター化」

○地域づくり組織に指定管理委託していた公民館を市民センター化し、地域づくり活動・生涯学習活動・地域福祉活動の拠点としてスタート

平成28年4月～
市民センター化

平成30年5月～
市民センター和室で地域づくり組織によるレストラン営業開始



コミュニティーカフェ（つつじが丘地区）

①地域づくり組織（名張流まちづくり）

名張市では、「公共」は、行政のみが独占的に担うという考え方を改め、基礎的コミュニティと地域づくり組織等と行政が協働で担うことによって、従来の行政のやり方だけでは対応できなくなってしまった領域や内容のサービスを提供できる」といった考え方が広がりつつあり、「**住民が自ら考え、自ら行うまちづくり（ソーシャルキャピタル）**」が醸成されてきている。
行事だけでなく**さまざまな事業の展開が可能**となった。

特徴的な地域づくり組織の取組

■ 地域の活性化

地域の活性化を目的としたお祭りなどのイベント実施



■ 防犯パトロール

地域の防犯を目的とした青色回転灯車によるパトロール



■ 配食サービス

地域住民が配食ボランティアとして、定期的にお弁当を配達し、地域で見守る。



■ 住民主体の生活支援

地域住民同士がその生活を有償で支え合う仕組み。向こう三軒両隣の関係を再構築。
(隠おたがいさん)



■ 子育て広場

地域で子育てを応援する子育て広場の開設
(おじゃまる広場)



■ 教育との連携

地域住民が教育の現場に学習支援で参加。地域愛をもった子ども達が育ちつつある。
(ほめほめ隊)



①住民主体の生活支援取組状況

(有償ボランティア年間支援実績約25,000件)

介護予防・日常生活支援総合事業に位置付け

固定費補助

生活支援40万円、外出支援110万円

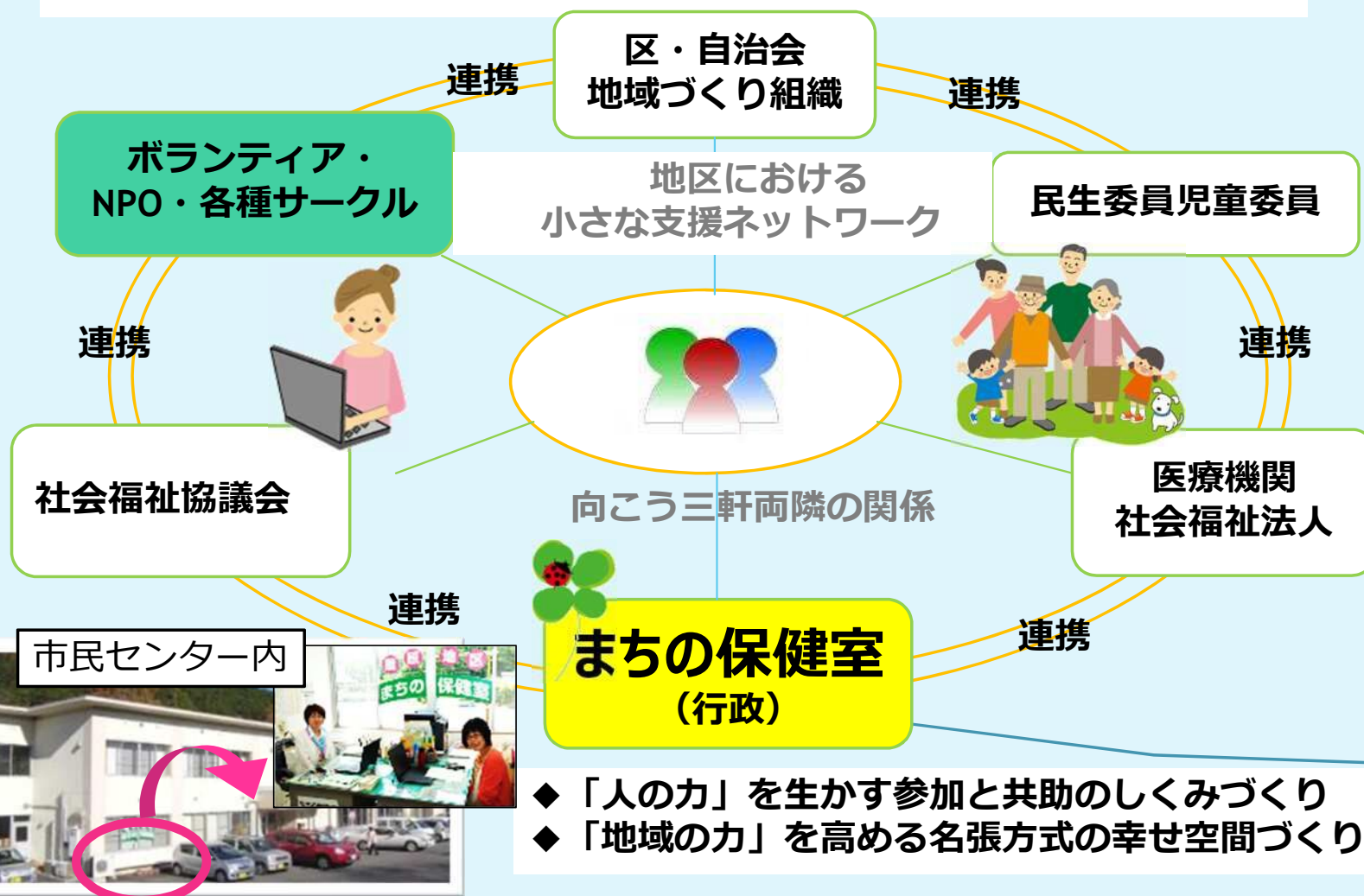
家事支援及び庭の管理、日曜大工等の日常生活の困りごとに対する支援、必要に応じた安否確認が11地域において取り組まれており、**移動が困難な方に対する外出支援事業が7地域で実施**されています。

地域名	地域づくり組織内の当該事業 実施組織名	事業開始年月	令和3年度 実績	
すずらん台	すずらん台ライフサポートクラブ	 H20.4	生活支援 116件	外出支援 3864件
青蓮寺・百合が丘	生活支援ボランティア「ポパイ」	 H23.4	35件	3856件
名 張	隠おたがいさん	 H23.7	356件	917件
つつじが丘・春日丘	特定非営利活動法人 生活支援 住民主体の生活支援	 H23.11	328件	12185件
比奈知	助っ人の会	H25.4	89件	
桔梗が丘	桔梗が丘お助けセンター	 H27.4	37件	568件
美 旗	はたっこサポート運営審議会	H28.4	100件	
薦原	コモコモサポート	H29.8	34件	
赤目	あんしんねっと赤目	 H30.6	51件	1106件
川西・梅が丘	ちょい・すけ	 H31.4	65件	300件
国津	ささえあいネットくにつ	R3.5	74件	

年間 生活支援1,285件
外出支援22,796件

②まちの保健室

地域の福祉資源を結ぶ大きな地域福祉ネットワーク



まちの保健室について

- ・ 設置根拠（平成17年度）
『第一次地域福祉計画』
- ・ 地域づくり組織と一体的
に地域福祉を推進するの
が目的
- ・ 市内15か所、おおむね**小
学校区単位**の地域づくり
組織事務所（市民センタ
ー）に併設。
- ・ 社会福祉士や看護師、介
護福祉士など有資格者
各2～3名を配置

活動内容

- （1）健康・福祉の総合相談
電話・来所・訪問相談 介護
保険の認定調査、申請代行も
- （2）健康づくり・介護予防
健康相談、健康づくり・介護
予防の啓発
- （3）見守り・支援ネットワ
ークづくり
サロンの立ち上げ、運営支援

②まちの保健室

「地域の方々に、安心して活動していただけるよう試行錯誤の毎日です。」



 お花見

毎年恒例の
名張バリバリ
体操♪

 敬老会

敬老会・子供会
は企画段階から
参加★



 餅つき
大会

健康や防災
を楽しく
Ｏ×で！

 夏祭り



血圧も測り
ますよ！



 芋ほり



 子供会クリスマス会

特徴的な 5つの機能

①安心して相談で
きる地域の情報拠
点（課題をかかえこま
せない）

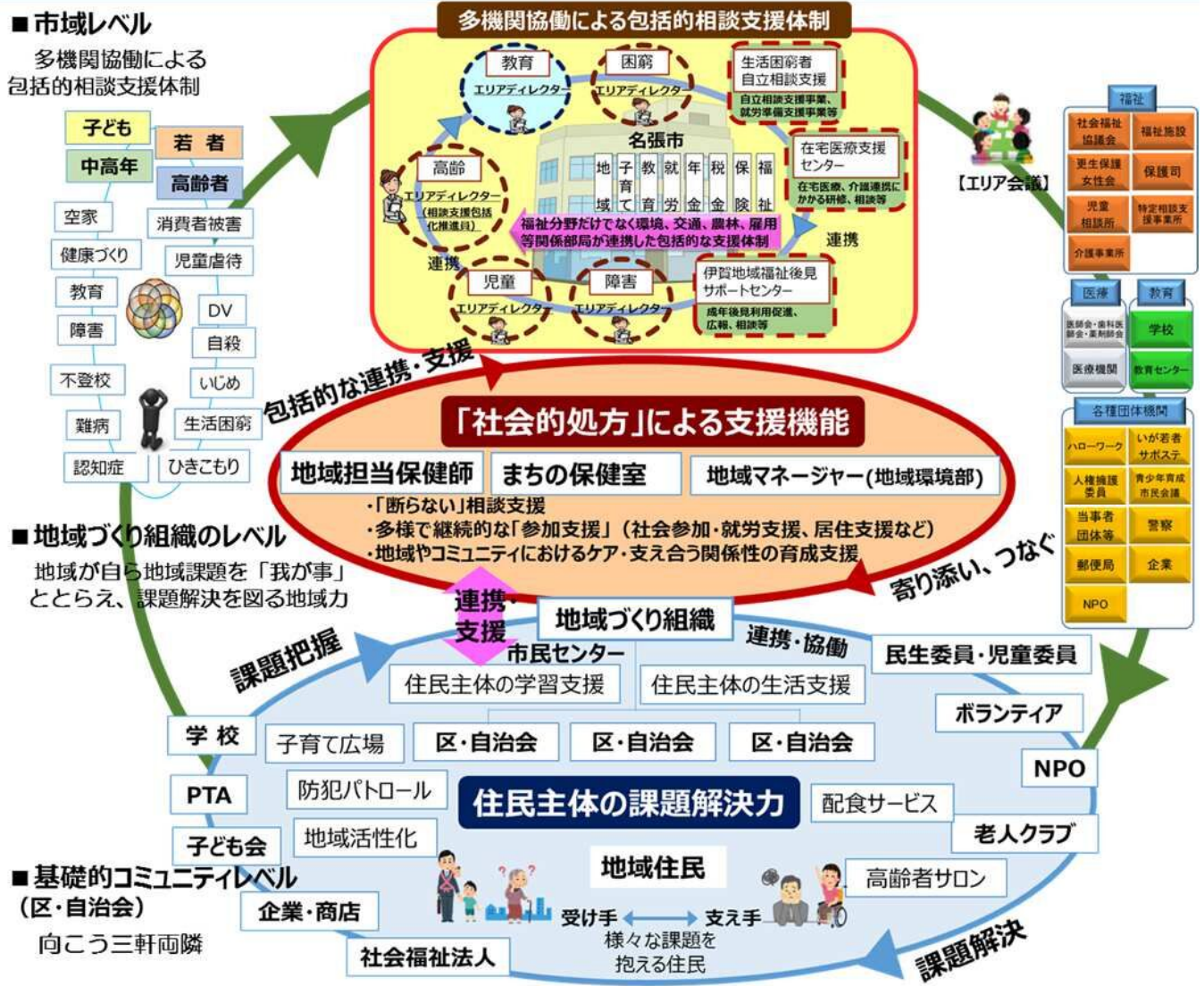
②パイプ役として
の機能（連携の核）

③長期的かかわり
（制度につながるまでの
中心のかかわりとその後
の見守り）

④地域とのかかわ
り（地域と一緒に支援
する。地域そのものへの
支援）

⑤専門職らしくな
い（敷居は低い、されど
専門職。絶妙な距離
感）

③ 名張市地域福祉教育総合支援ネットワーク ～名張市の重層的支援体制と「社会的処方」による支援機能



【ネットワーク概要】

①住民主体の課題解決力

本市の誇る地域力を生かした生活支援や配食サービスなど地域の社会資源やしきみなどを基盤として、地域社会に多様なつながりが生まれやすくするための環境整備を推進する。

②多機関協働による包括的相談支援体制

教育も含め、高齢者、障害者、子どもなどの各分野を横断した連携や相談支援体制を更に推進する。

③「社会的処方」による支援機能

ひきこもりや支援拒否など、これから必要となる断らない相談支援・参加支援（社会とのつながりや参加の支援）や専門職による伴走型支援といった「社会的処方」による支援機能の充実を図り、全世代・全対象型包括支援センター機能を持った「地域福祉教育総合支援ネットワーク」を推進する。

WHO（世界保健機関）が本市の地域力を生かした取組を視察

12月12日・13日、WHO（世界保健機関）の代表4人が、高齢化対策の5か年計画を策定のため、本市の先進的な地域の取組を視察に訪れました。



すずらん台地域
「はつらつらんらん体操」



赤目地域
「まちじゅう元気プロジェクト」



百合が丘地域 百合が丘小学校
学習支援「ほめほめ隊」



名張地域 イオン 名張店 3F 毎朝8時30分
「よくバリ青春体操」



名張地域 生活支援
有償ボランティア「隠おたがいさん」

世界保健機関（WHO）

World Health Organization



世界中の人々の健康を実現することを目的に設立した国際連合の専門機関です。本部はスイスにあり、現在200ほどの国と地域が加盟しています。病気の撲滅のための研究や医療・医薬品の普及、災害時の緊急対応、伝染病などの感染症対策、世界の保健衛生の分野が抱える問題などに対する支援を行っています。



WHO 西太平洋地域事務局
社会的決定要因担当課長

キラ フォーチュン さん
Mrs. Kira Fortune

名張市はコミュニティをととても大切にしています。そして、子どもから高齢者までの全世代に対するさまざまな取組を各関係機関と協力しながら計画を持って進めていることが素晴らしいです。世界では2045年に高齢者が若者を上回ると予測され、今後高齢化が進んでいきます。名張市の事例を世界の高齢化対策の参考にします。

語れるまちなばりの の実現に向けて

市民発の ブランドロゴ創出

まちづくりにかかわる若者や学生などが参加したワークショップと市民総選挙により、「人の良さ」や「市民の活動」にかかわる魅力を表現するブランドロゴが誕生しました。

この取組は、総合計画の基本理念である「語れるまち」を目指し、まちに愛着を持ち、まちに関わる人を増やす「シティプロモーション」の一環です。ロゴは、名張ならではの魅力を表し、私たちのまちの姿を共有できるツールとして、皆さんとともに活用を進めていきます。



悩みや不安なことも支え合いでなんとかなる。

人のつながりやあたたかさ、

そして、市民から生まれるさまざまな活動がまちの自慢です。

チャレンジをしたい人や元気になりたい人はぜひ名張へ。
名張の市民が「なんとかなるなる」の精神で受け入れます。

重複する「な」をひとつにし、円の中に入れることでつながりをイメージ。緑は名張を囲む山々や田畑を、青は清流を、オレンジは名張で暮らす快活な人や、人のあたたかさを表現しています。

投票総数 8,204 票 (令和 5 年 12 月 3 日～令和 6 年 1 月 21 日)

▶得票数と選んだ主な理由をご紹介します



2,030 票

- ・人の輪が大切だから
- ・知り合いが次々つながっていく経験をすることが多いから



3,618 票

- ・「なんとかなる」で救われたから
- ・挑戦している人を応援したいから



2,556 票

- ・まさに、名張の説明が難しいから
- ・イラストで名張が分かるから

市民ワークショップで紡がれた思いがロゴに

昨年6月から半年以上にわたり実施されたワークショップでは、名張の魅力でどんな人が幸せになれるまちなのかを考え、「人とつながりたい人」「チャレンジしたい人」「元気になりたい人」などの物語が紡がれていきました。その中で、疲れていたり今の生活にモヤモヤしていたりする人も、名張で元気になってほしい、名張ならなんとかなる、といった思いが共有され、ブランドロゴに引き継がれています。



ロゴができるまで



まちを愛する若者や学生、約 40 人が集う



名張の魅力を出し合う。その数 800 !



まち歩き！まちとひとの魅力を共有



「名張で幸せになれる人」の物語を紡ぐ



キャッチコピーを 300 案近く作成



3 案に絞り市民総選挙！投票総数 8,204 票



「活動人口」を増やし持続可能なまちづくりへ



動画でみる
ロゴの物語